

イラク情勢分析
- 政治・治安・石油・経済の観点から -

2010年6月14日

(財)日本エネルギー経済研究所
中東研究センター
研究主幹 大先一正

報告要旨

1. 政治

3月選挙 シーア派:「法治国家連合」と「イラク国民連合」の分裂選挙
 スンニ派:「イラキーヤ」に票を集めて第1党獲得(91議席/325議席)
 「クルド同盟」を含めた4党間の多数派工作
 (課題) 挙国一致内閣の樹立
 旧政権の「負の遺産」の克服(脱バアス党・脱アラブ化政策)

2. 治安

宗派間抗争による最悪期は脱却/依然、過激派は脅威
 選挙後の政治的空白の下で迫る米軍撤退(戦闘部隊8月末)
 (課題) 宗派間抗争の再燃防止
 民族間対立の沈静化(クルド人 vs アラブ人)

3. 石油

遅れる石油産業の復興(昨年生産量240万b/d、戦前ピーク260万b/d)
 本格的な資源開発計画のスタート(1200万b/d体制)
 (課題) 産業インフラ整備/新石油法の制定<国内対応>
 国際石油需給へのインパクト/OPEC生産枠問題<対外調整>

4. 経済

油価回復により成長路線に復帰
 民生安定化とインフラ整備(電力・水道等)の推進
 (課題) 雇用創出及び産業振興(農業・製造業等)

イラクの概要

■地理（国土面積:43.7万km²）

- ・半ば陸封国（海岸線58km／国境線3650km）
- ・肥沃な三日月地帯（2大国際河川）

■歴史

- ・人類最古メソポタミア文明の誕生
- ・東西帝国の係争地
- ・シーア派の誕生（聖都ナジャフ／カルバラ）

■社会（人口:約2900万人）

- ・第1次大戦後に「イラク」建国
- ・シーア派／スンニ派／クルド人間の確執
- ・不安定な内外情勢から軍主導の統治

■経済

- ・元々は農業国（小麦・米・ナツメヤシ等）
- ・産油国として発展（埋蔵量1150億バレル）
- ・戦乱等で経済低迷（GDP約2100ドル／人）



（出所）CIA World Factbook2010.4

イラク戦争後7年間の軌跡

2003年5月 ブッシュ大統領「戦闘終結」宣言



2006年2月 アスカリ聖廟爆破事件

(爆破前)



2007年2月 ペトレイアス司令官「交番」作戦



2010年3月 第2回国会選挙(マーリキ首相)



1. 政治

(1) イラク戦争後の政治プロセス

米軍統治期	2003.4	フセイン政権崩壊
	2003.5	連合国暫定当局(CPA)発足
	2003.7	イラク統治評議会発足
暫定政府期	2004.6	暫定政府(アラウィ首相)発足 連合国暫定当局(CPA)解散
	2005.1	移行国会選挙(統一イラク連合過半数)
移行政府期	2005.4	移行政府(ジャアファリ首相)発足
	2005.10	新憲法案の国民投票／承認
	2005.12	第1回国会選挙(統一イラク連合第1党)
正式政府期	2006.5	正式政府(マーリキ首相)発足
	2007.夏	サドル師派・スンニ派離反／シーア派・クルド4党結束で危機克服
	2009.1	県議会選挙(法治国家連合勝利)
	2009.7	クルド地域県議会・同大統領選挙
	2010.3	第2回国会選挙(イラキーヤ第1党)
	?	次期政権の発足

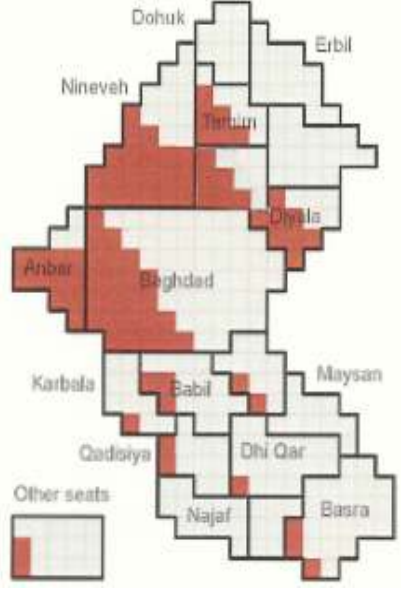
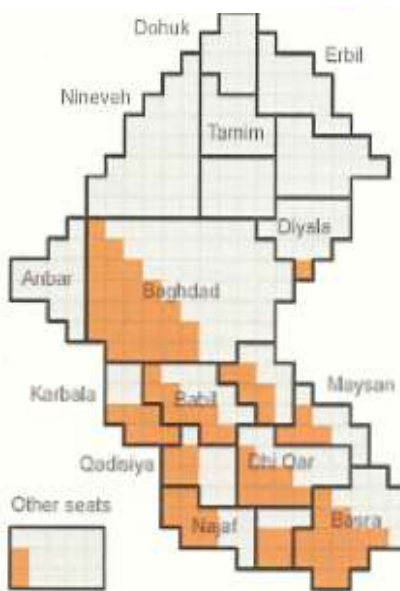
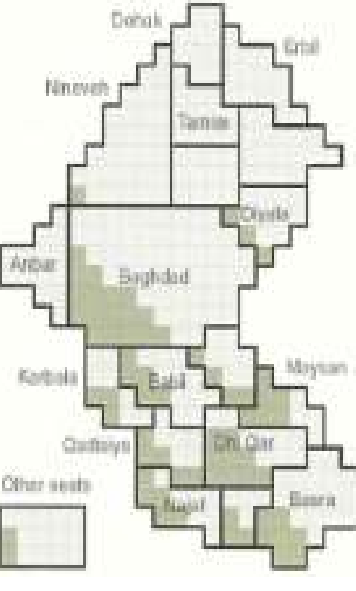
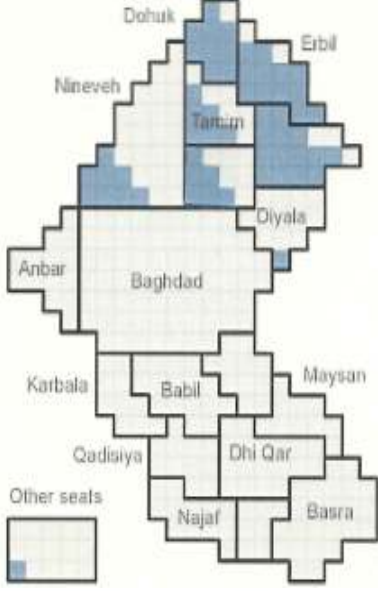
1. 政治

(2) 国会選挙結果

移行国会選挙 (2005.1.30)	第1回国会選挙 (2005.12.15)	第2回国会選挙 (2010.3.7)																																						
<table border="0"> <tr><td>統一イラク連合</td><td>140議席</td></tr> <tr><td>クルド同盟</td><td>75議席</td></tr> <tr><td>イラク・リスト</td><td>40議席</td></tr> <tr><td>その他</td><td>20議席</td></tr> <tr><td>計</td><td>275議席</td></tr> </table>	統一イラク連合	140議席	クルド同盟	75議席	イラク・リスト	40議席	その他	20議席	計	275議席	<table border="0"> <tr><td>統一イラク連合</td><td>128議席</td></tr> <tr><td>クルド同盟</td><td>53議席</td></tr> <tr><td>合意戦線(スンニ派)</td><td>44議席</td></tr> <tr><td>国民対話戦線(同上)</td><td>11議席</td></tr> <tr><td>イラク・リスト</td><td>25議席</td></tr> <tr><td>その他</td><td>14議席</td></tr> <tr><td>計</td><td>275議席</td></tr> </table>	統一イラク連合	128議席	クルド同盟	53議席	合意戦線(スンニ派)	44議席	国民対話戦線(同上)	11議席	イラク・リスト	25議席	その他	14議席	計	275議席	<table border="0"> <tr><td>イラキーヤ</td><td>91議席</td></tr> <tr><td>法治国家連合</td><td>89議席</td></tr> <tr><td>イラク国民連合</td><td>70議席</td></tr> <tr><td>クルド同盟</td><td>43議席</td></tr> <tr><td>ゴラン(クルド)</td><td>8議席</td></tr> <tr><td>その他</td><td>24議席</td></tr> <tr><td>計</td><td>325議席</td></tr> </table>	イラキーヤ	91議席	法治国家連合	89議席	イラク国民連合	70議席	クルド同盟	43議席	ゴラン(クルド)	8議席	その他	24議席	計	325議席
統一イラク連合	140議席																																							
クルド同盟	75議席																																							
イラク・リスト	40議席																																							
その他	20議席																																							
計	275議席																																							
統一イラク連合	128議席																																							
クルド同盟	53議席																																							
合意戦線(スンニ派)	44議席																																							
国民対話戦線(同上)	11議席																																							
イラク・リスト	25議席																																							
その他	14議席																																							
計	275議席																																							
イラキーヤ	91議席																																							
法治国家連合	89議席																																							
イラク国民連合	70議席																																							
クルド同盟	43議席																																							
ゴラン(クルド)	8議席																																							
その他	24議席																																							
計	325議席																																							
<ul style="list-style-type: none"> ・シーア派: 一本化(シスターニ師提唱)、過半獲得 ・スンニ派: 大半は棄権 ・クルド人: 一本化に成功、第2党・発言力を獲得 	<ul style="list-style-type: none"> ・シーア派: 一本化を維持、第1党・最大勢力を堅持 ・スンニ派: 投票参加、票を分け、第3,4党に留まる ・クルド人: 第2党を維持 	<ul style="list-style-type: none"> ・シーア派: 分裂選挙、第2,3党に後退 ・スンニ派: 「イラキーヤ」に結末、第1党を獲得 ・クルド人: 分裂選挙、第4,5党 																																						

1. 政治

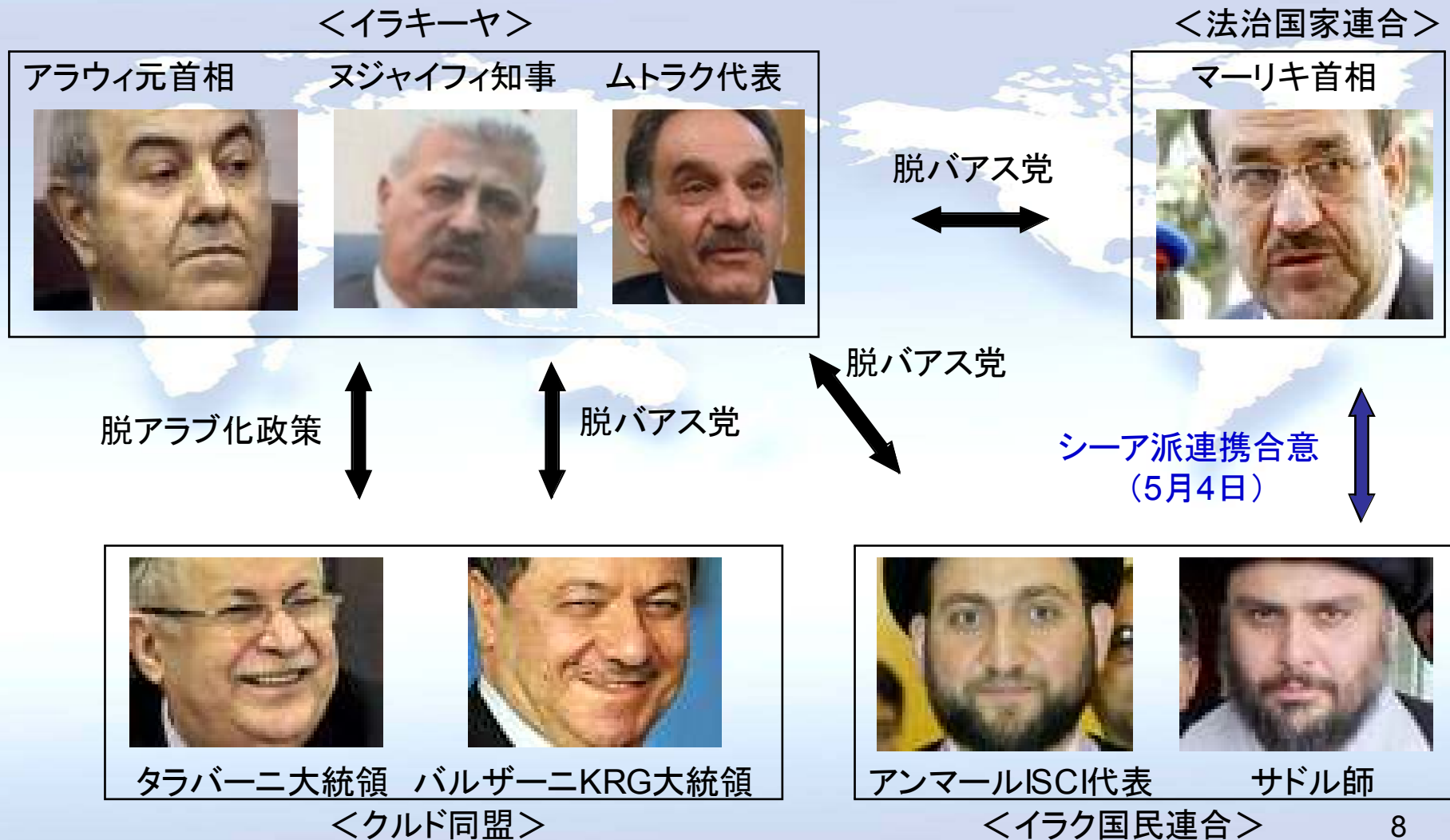
(3) 4大政党の議席配分

イラキーヤ	法治国家連合	イラク国民連合	クルド同盟
91議席	89議席	70議席	43議席
			
<p>アラウィ元首相 ヌジャイフィ知事兄弟 ムトラク・イラク国民 対話戦線代表</p>	<p>マーリキ首相 ハサーニ元国会議長 スレイマン・アンバール県 覚醒評議会指導者</p>	<p>サドル師 アンマールISCI代表 ジャアファリ前首相</p>	<p>バルザーニKDP党首 (クルド地域大統領) タラバーニPUK党首 (イラク大統領)</p>

(出所)NYT “The 2010 Iraqi Parliamentary Elections”2010.3.26

1. 政治

(4) 4大政党の指導者と主要争点



1. 政治

(5) 宗派・民族間の断層

■「イラク」建国の後遺症

- ・オスマン帝国3州の併合
 - バグダード州：スンニ派アラブ人
 - バスラ州：シーア派アラブ人
 - モスル州：クルド人・アッシリア人等
- ・統治体制
 - ファイサル国王(元メッカ太守ハシミテ家)
 - 少数派スンニ派を重用
 - 多数派シーア派を封込め

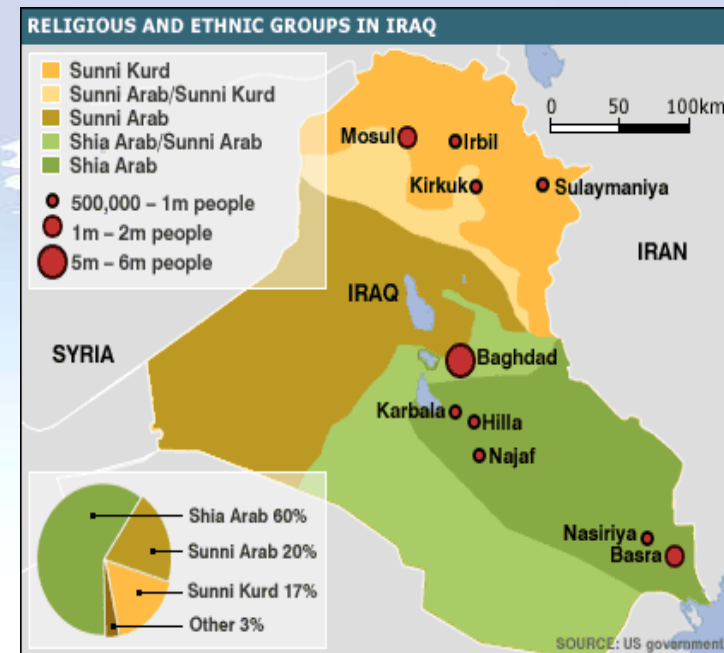
■イラク戦争後の動向

- ・スンニ派：復権を目指す
- ・シーア派：旧バース党復活を警戒
- ・クルド人：アラブ化政策の清算

■経済的求心力の不足

- ・地域間の経済的互惠関係が希薄
- ・産業(農業・製造業等)の衰退
 - 硬直的な統制経済政策
 - 戦乱や国連経済制裁
 - 石油の呪い(資源国共通の悩み)

(参考)イラクの宗派・民族分布

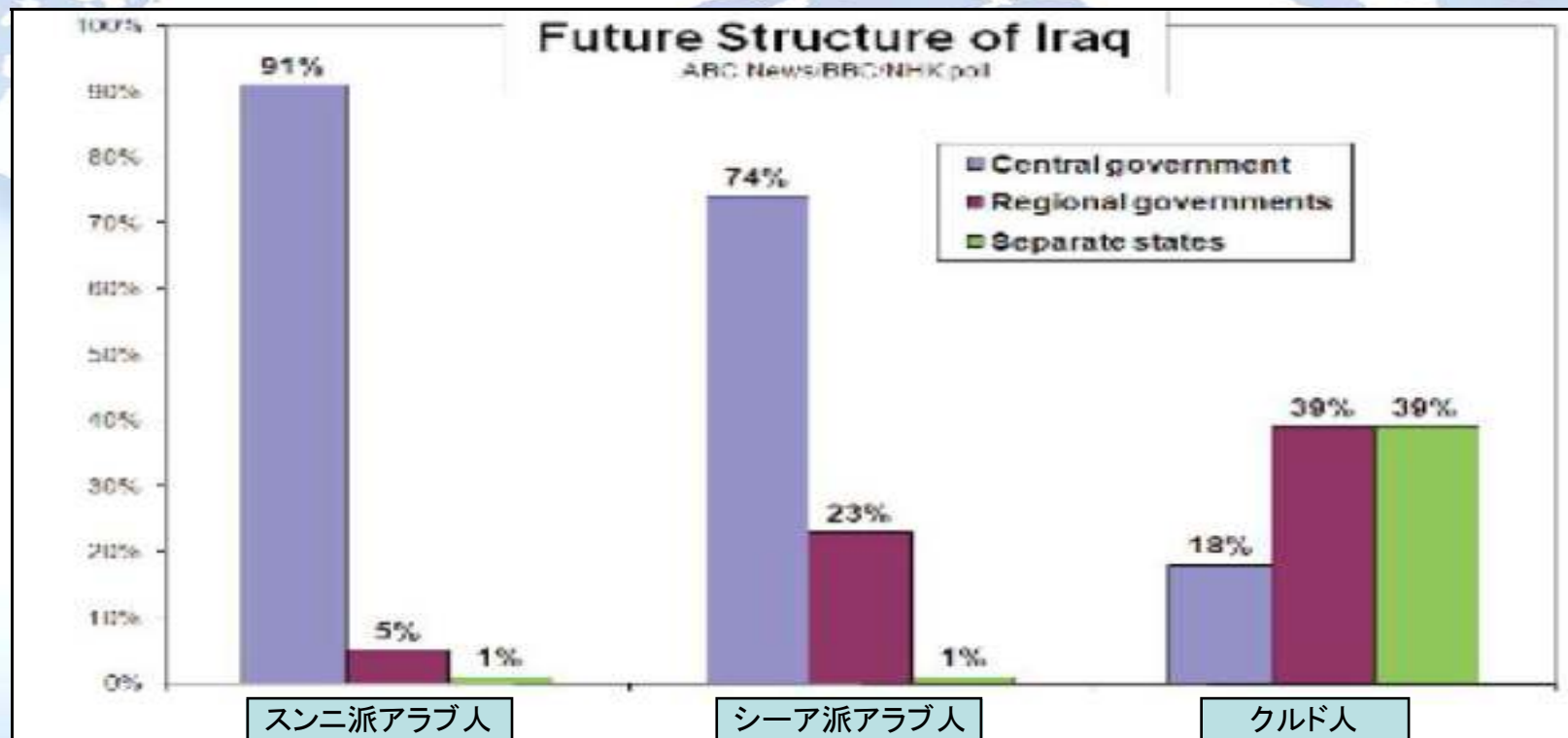


(出所)BBC website

1. 政治

(6)異なる国家像(「石油の富」を巡るゼロサム・ゲーム)

- スニ派: イラク中部・西部は石油資源に乏しく、中央政府による配分を要求
- クルド人: キルクーク油田等の権益獲得による財政基盤強化を目指す
- シーア派: 南部の石油生産地域では、「石油の富」の地元への還元を求める動き



(出所) A. H. Cordesman "Iraq's Fracture Lines" 2009.7

1. 政治

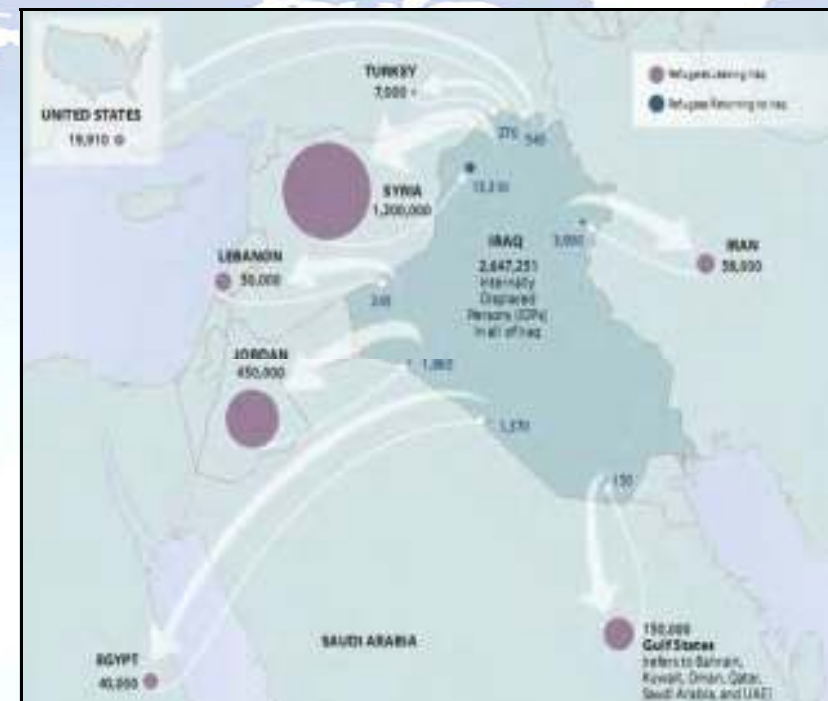
(7) 周辺国6か国との外交関係

- 国境を越える同胞意識(部族・民族・宗派の絆)
- イラクの安定化・統一性確保の必要性を認識

イラン	親イラン・シーア派政権存続を目指す 宗教・政治指導者との人脈 イラク国内に根強いイラン警戒感
サウジアラビア クウェート ヨルダン	シーア派イランの影響力拡大を懸念 (ヨルダン国王:シーア派三日月地帯発言) 非公式ルートのスニ派支援(?)
シリア	不完全な国境管理/密入国ルート イラク・バース党の活動容認 昨年8月テロ事件を契機に関係悪化
トルコ	イラクの統一性確保は重要目標 (クルド人テロ組織PKK対策に腐心) イラク国内のトルコメン保護に関心 経済交流重視(貿易・石油・河川水)

(参考) 周辺国に向けたイラク難民
・難民 200万人(シリア120万人他)

<国内避難民(IDP)265万人>



(出所) SIGIR季報2009.10

1. 政治

(8) 今後の展望

■ 政治日程

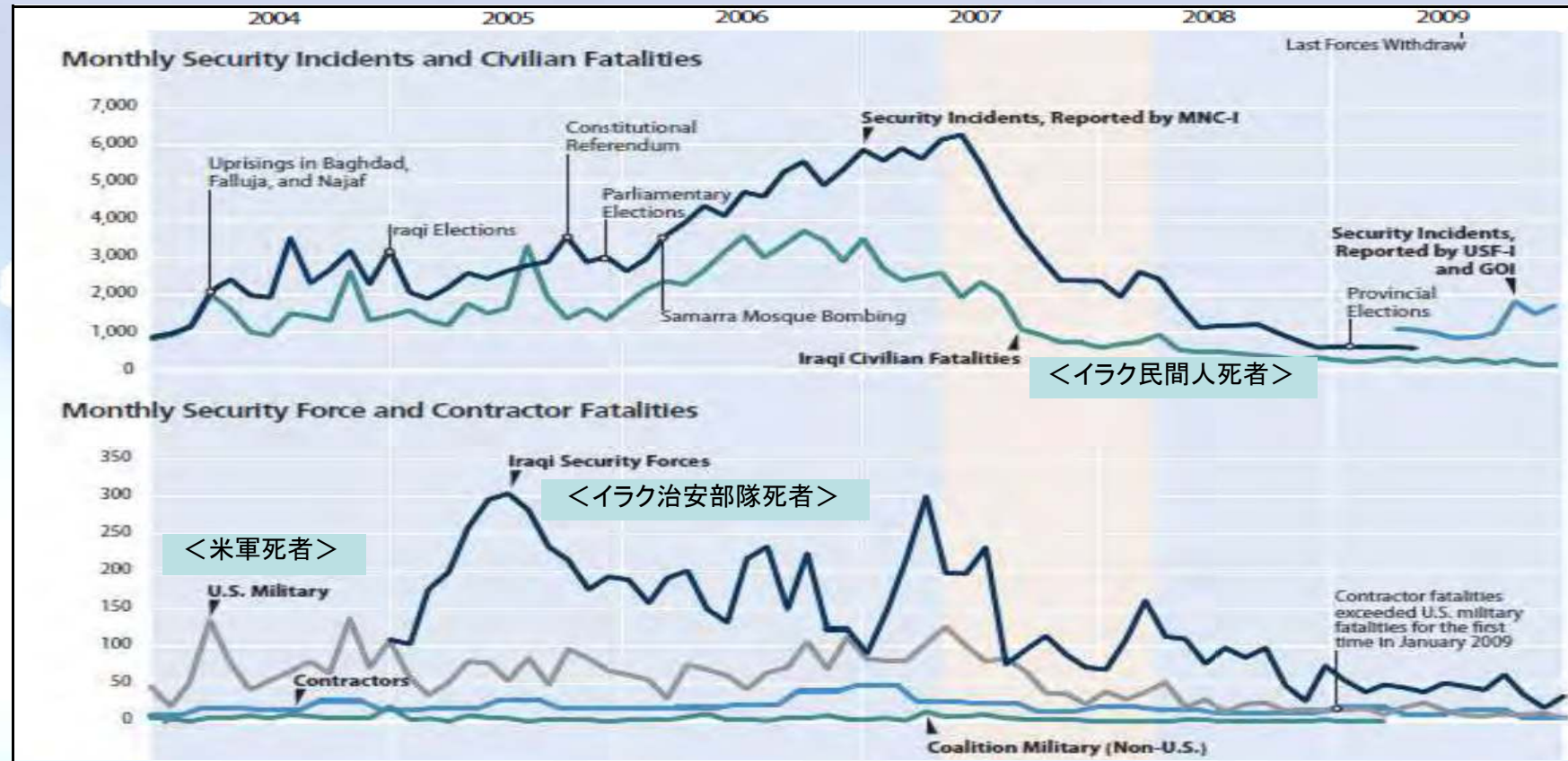
3月 7日	投票日	第2回国会選挙
3月26日	暫定結果発表	選挙管理委員会
6月 1日	最終結果確定	連邦最高裁判所の承認(憲法第93条)
15日以内	国会召集	旧大統領が15日以内に召集(第54条)
初会合	議長選出	絶対多数で決定(第55条)
30日以内	大統領選出	2/3以上の賛成、不足時は上位2名の決戦投票(第70条)
15日以内	首相指名	新大統領が15日以内に最大ブロックから指名(第76条)
30日以内	閣僚選出	新首相が30日以内に指名、国会の絶対多数で決定(第76条)

■ 連立政権のシナリオ<過半数163議席>

- ・シーア派統一会派(法治国家連合+イラク国民連合): 159議席<49%> (5/4基本合意)
- ・3大勢力連合(クルド同盟参加・イラキーヤ除外): 202議席<62%> (宗派間抗争の懸念)
(イラキーヤ参加・クルド同盟除外): 250議席<77%> (民族間抗争の懸念)
- ・4大勢力大連合: 293議席<90%>

2. 治安

(1) 治安事件件数・犠牲者数の推移(2004～2009年)



(出所) A. H. Cordesman "Iraq: Meeting the Challenges of 2010" 2010.3

(注) 犠牲者総数: 米軍4400人、イラク民間人11万3000人、イラク治安部隊9500人

(出所) Iraq Index 2010.5.25 13

2. 治安

(2) 治安情勢の変化

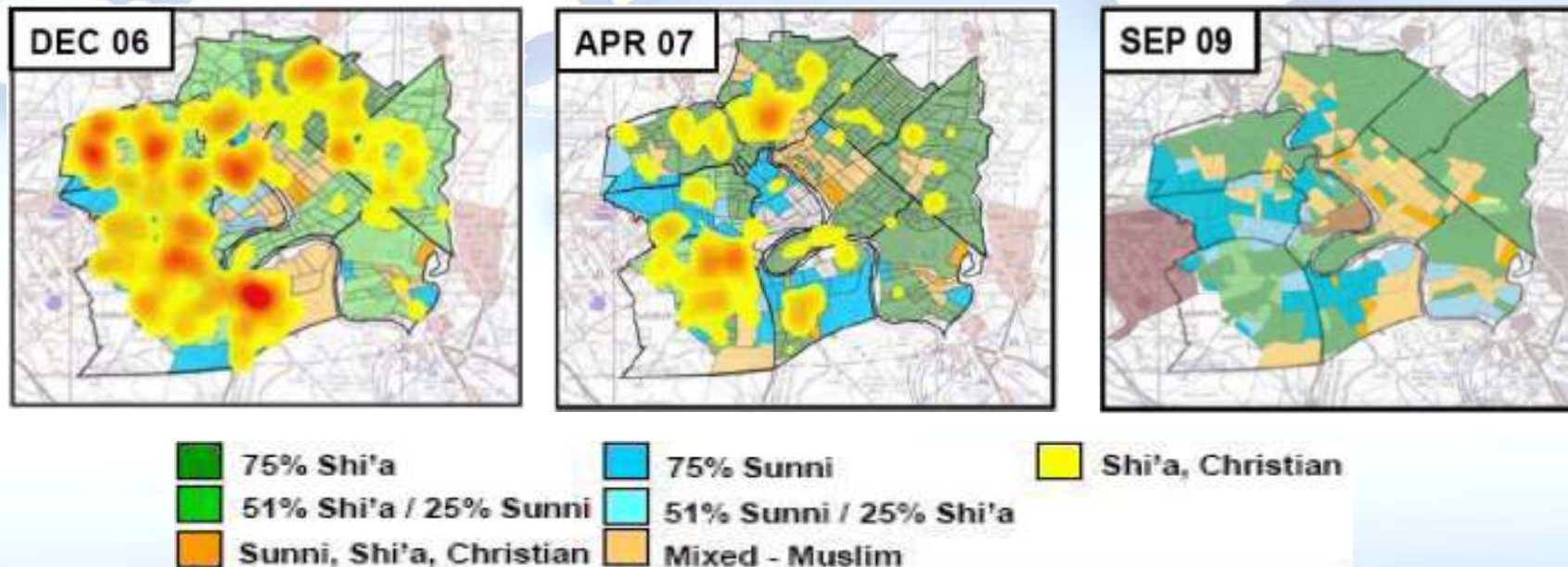
米軍・協力者への攻撃期	2003.8 国連代表部に対する自動車自爆テロ 2003.11 奥大使・井ノ上書記官殉職 2004.4～5、8 米軍:シーア派マフディ軍団と交戦 2004.4、11 米軍:スンニ派過激派拠点ファルージャの掃討作戦 2005.10 米軍:戦死者2000人を超す
治安最悪期	2006.2 シーア派聖地アスカリ聖廟爆破事件 2006.10 スンニ派過激派:「イラク・イスラム国」建国宣言 2006.12 フセイン大統領の絞首刑執行
治安回復期	2007.2 米軍増派を踏まえた新治安対策<ペトレイアス司令官> 2007.4 国会内自爆テロ<イラク・イスラム国> 2007.8 カルバラ騒擾事件<サドル師:マフディ軍団に休戦命令>
治安安定期	2008.3 イラク南部バスラでのシーア派掃討作戦 2008.4～5 バグダード東部サドルシティでのシーア派掃討作戦 2008.10 覚醒評議会(スンニ派)管理権限のイラク政府への移管開始
米軍撤退期	2009.6末 米軍都市部より撤退 2009.8、10、12 バグダード中心部の政府機関への大規模爆弾テロ 2010.1 バグダード中心部の高級ホテルへの連続爆弾テロ 2010.4 イラク・イスラム国幹部バグダディ、マスリ両容疑者の殺害

2. 治安

(3) 首都バグダード混住地域の変化

- 宗派浄化： 宗派抗争を通じ、地区別の住み分け進捗
- シーア派の優位： 人口面の優位性(シーア派約60%／スンニ派約20%)
シーア派主導のイラク治安部隊(イランで訓練を積んだバドル軍団)
- 大規模爆弾テロや報復対人テロの根絶には至らず

(参考)バグダード市内の宗派浄化の進展

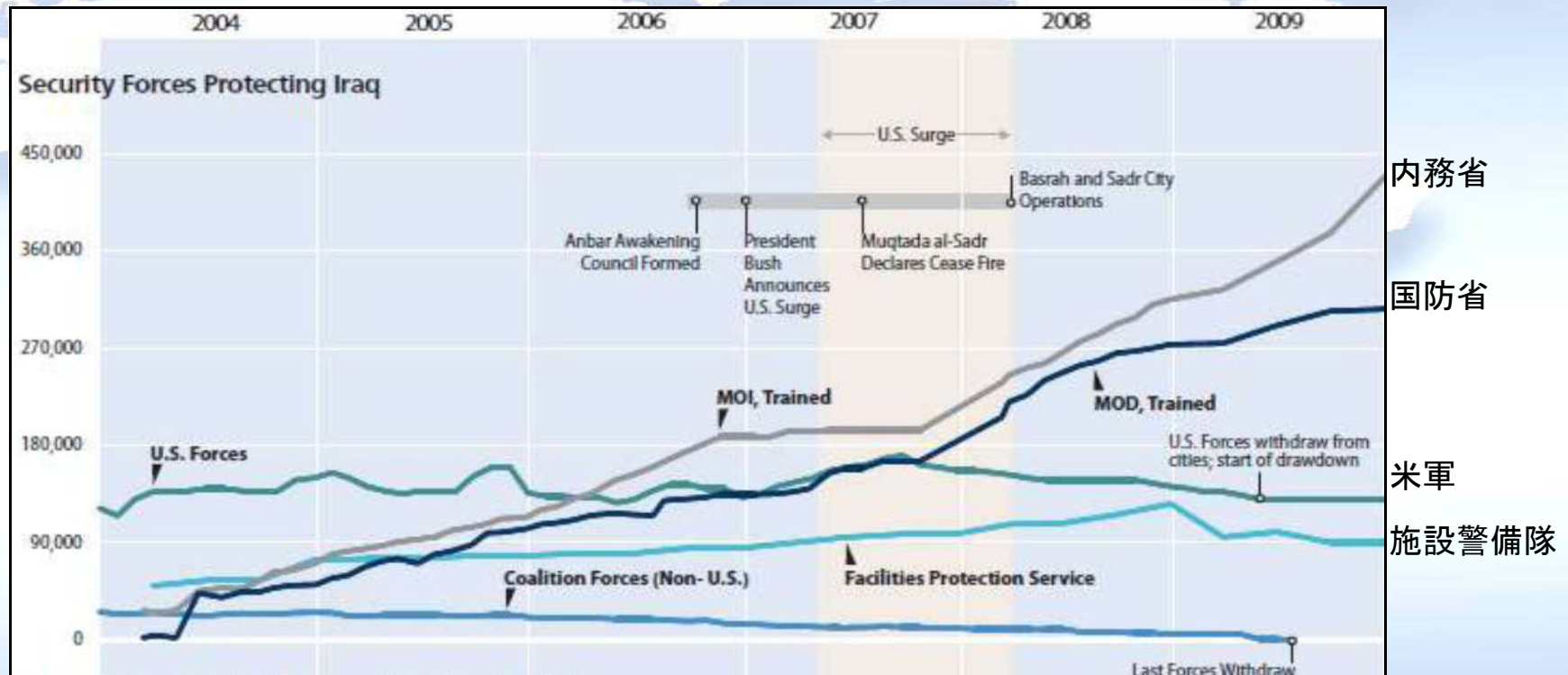


(出所)A. H. Cordesman "Iraq's Fracture Lines"2009.7

2. 治安

(4) 治安体制の強化状況(2009年末)

- イラク治安部隊 660,334人(国防省251,872人／内務省408,462人)
- 施設警備隊 90,000人(公共施設、道路・橋、モスク等警備)
- 民間武装警備員 25,500人



(出所) A. H. Cordesman "Iraq: Meeting the Challenges of 2010" 2010.3

2. 治安

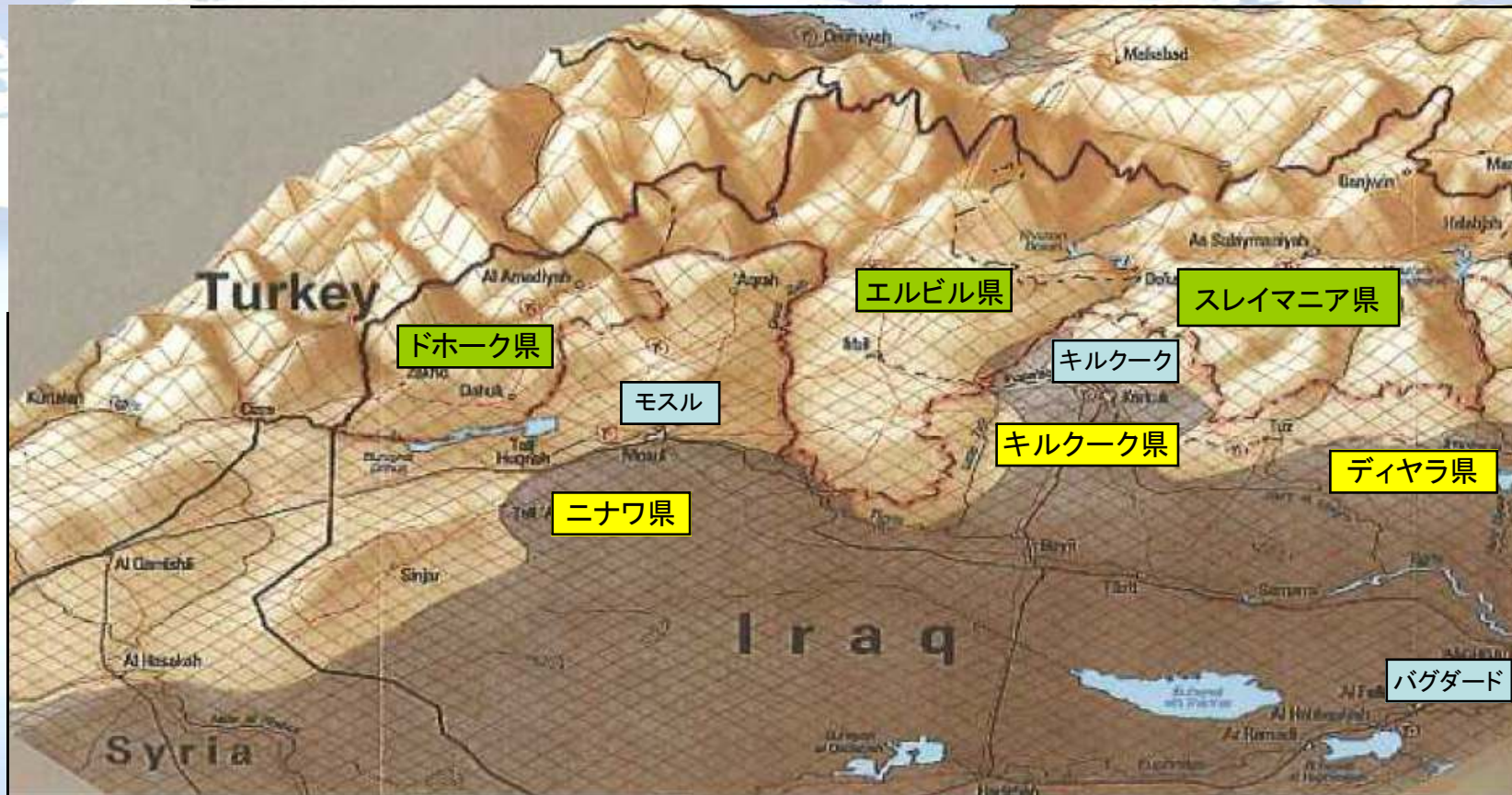
(5) 主要武装勢力

グループ名		兵力(推定)	備 考
シーア派	バドル軍団 (故ハキム師派)	1万~1.5万人 (帰国時)	故ハキム師兄弟がイラン亡命中にイラン革命防衛隊の支援の下で設立 イラン・イラク戦争には、対イラク・ゲリラ部隊として参戦 イラク戦争後に帰国、イラク軍・警察の中核を形成
	マフディ軍団 (サドル師派)	1万~2万人 (最盛期数万人)	反米指導者サドル師によりイラク戦争後に設立／米軍と交戦を繰り返す カルバラ騒擾事件(2007.8)後、武力活動自粛 今回国会選挙でのサドル師派の躍進を踏まえ、再活性化の動き
スンニ派	アルカイダ	2千~4千人	イラク戦争後に入国、国際組織の拠点建設を意図(イラク・イスラム国) シーア派に対する無差別テロ、宗派抗争を扇動 スンニ派部族の支持を失い、勢力減退。しかし、依然として脅威
	覚醒評議会	約10万人	米軍の支援を受けて2006年以降、アンバール県等で設立 アルカイダ掃討作戦に参加／治安回復に貢献 再雇用(治安部隊20%／その他80%)が財政難等から遅延／不満高まる
	その他	?	シリアを拠点に活動する旧バアス党勢力(イブラヒム元副議長等)や宗教色の強いその他勢力(アンサール・イスラム等)
ペシュメルガ (クルド人民兵組織)		約13万人	クルド人独立運動の担手としての長い活動歴(1920年代~) イラク戦争後、イラク北部の空白地帯に進出／スンニ派部族と対立 クルド民主党(KDP)・クルド愛国同盟(PUK)傘下の2組織を統合中 約半数はイラク治安部隊(イラク軍・警察)に編入見込み

2. 治安

(6) イラク北部係争地での民族対立

- ペシュメルガvsイラク軍の睨み合い／少数民族(ヤジディ教徒・アッシリア人等)へのテロ多発
- 2010年1月より米軍提唱の3軍共同警備体制(Combined Security Mechanism)スタート



(出所) Asia Times 2009. 10

3. 石油

(1) 戦後復興の遅延とクルド問題

■ 石油産業の復興遅延

2003～2007 略奪／反政府勢力の破壊工作
 2007年後半 トルコ向けパイプライン復旧
 ～現在 石油生産伸び悩み

■ 新石油法制定作業の頓挫

2007.2 法案閣議決定
 2007.7 修正案策定
 国会審議の頓挫
 <イラク石油省・KRG間対立>
 <国内に資源ナショナリズムの動き>

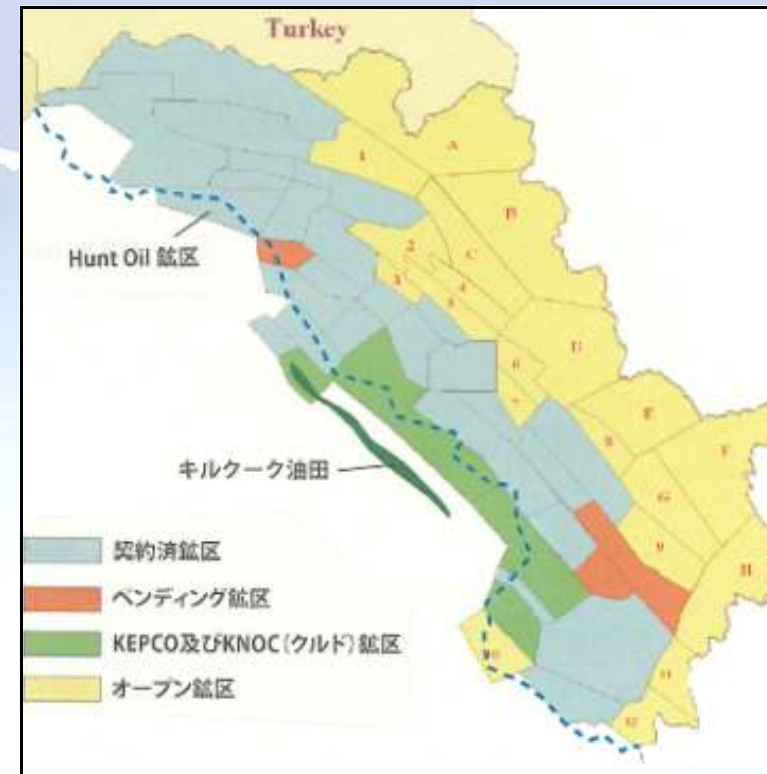
■ クルド地域政府の独自開発路線

2004～2006 生産分与契約締結(4件)
 2007.8 クルド地域石油法の制定
 2007.9～11 生産分与契約締結(15件)

<イラク石油省:違法宣言／輸出停止、入札排除>

2009.6 2006年以前契約済油田からの輸出開始
 2009.10 輸出停止(再開は新政権樹立後?)

(参考)クルド地域政府設定の鉱区



(出所) JOGMEC資料2007.12に加筆

3. 石油

(2) イラク石油省の開発政策

■ 基本方針

国際石油会社との共同開発
サービス契約の採用

〈生産分与契約(PSA)は不採用〉

厳しい報酬条件

■ 先駆的案件

2008.9 南部ガス利用計画合意: Shell/MC

2008.11 アフダブ油田開発契約: CNPC

■ 第1次入札案件

2009.6 ルメイラ油田落札: BP・CNPC

2009.10 ズベイル油田合意: Eni・Oxy・Kogas

2009.11 西クルナ油田(1)合意: EM・Shell

2010.5 ミサン油田群契約: CNOOC・TPAO

■ 第2次入札案件

2009.12 マジュヌーン油田等7油田落札

■ ガス田入札(2010.9?)

アッカス、マンスーリヤ、シバ・ガス田

(参考) イラク石油ガス関係図



(出所) JOGMEC石油・天然ガスレビュー2009.9

3. 石油

(3) 油田開発契約

■採算重視の欧米系メジャーズの慎重姿勢

■資源確保を目指すアジア国営石油会社の積極姿勢(中国、韓国、マレーシア) (注)

油 田		関 係 企 業	現生産量 (千b/d)	目標生産量 (千b/d)	増産量 (千b/d)	報酬額 (\$/b)
アフダブ油田		CNPC	-	115	115	6→3
第 1 次 入 札	ルメイラ油田	BP/CNPC	957	2,850	1,893	2
	ズベイル油田	ENI/Oxy/Kogas	195	1,125	930	2
	西クルナ油田(1)	ExxonMobil/Shell	285	2,325	2,040	1.9
	ミサン油田群	CNOOC/TPAO(トルコ)	100	450	350	2.3
第 2 次 入 札	マジュヌーン油田	Shell/Petronas	46	1,800	1,754	1.39
	ハルファヤ油田	CNPC/Petronas/Total	3	535	532	1.4
	カイヤラ油田	Sonagol(アンゴラ)	-	120	120	5
	西クルナ油田(2)	Lukoil/Statoil	-	1,800	1,800	1.15
	ガラフ油田	Petronas/Japex	-	230	230	1.49
	バドラ油田 (イラン国境地帯)	Gazprom/TPAO/Kogas /Petronas	-	170	170	5.5
	ナジマ油田	Sonagol	-	110	110	6
計			1,586,	11,630	10,044	

(注) SINOPEC、KNOCはクルド地域内の油田開発に参加/入札資格を喪失

3. 石油

(4) 今後の石油政策

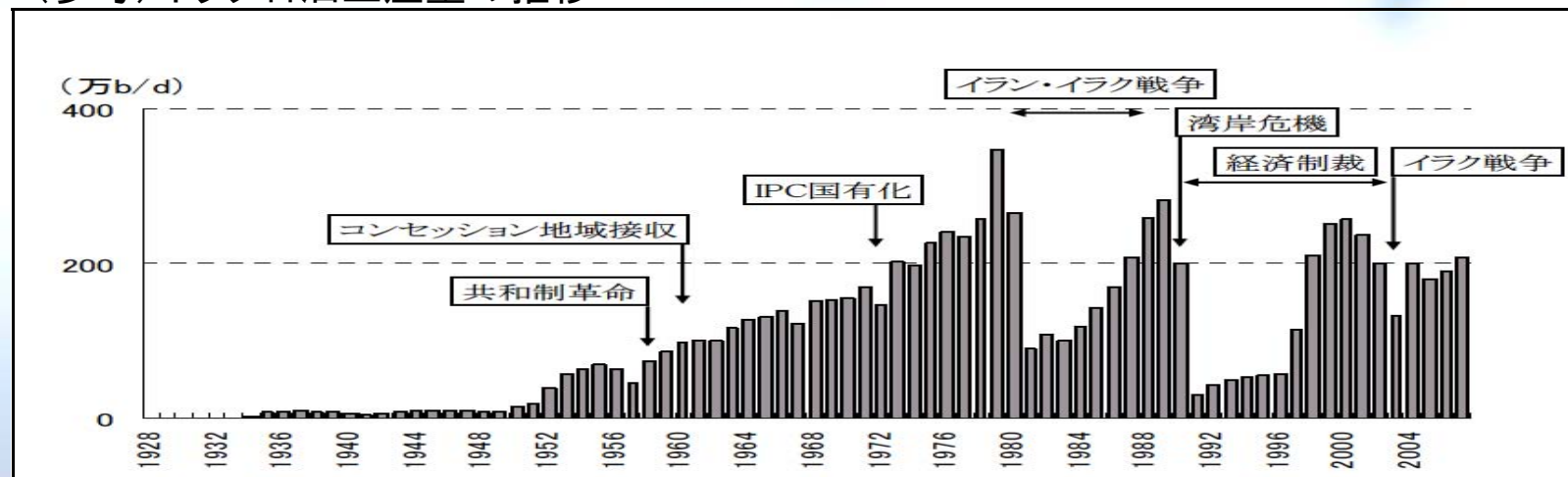
■ 経済開発5ヶ年計画の開発目標(2010.4閣議了承)

	2010年	2014年	備考
原油生産量	240万b/d	450万b/d	2011年末60万b/d増産、2017年1200万b/d
原油輸出	215万b/d	310万b/d	湾岸石油ターミナル・トルコ向けパイプライン整備
天然ガス	8億cf/d	27億cf/d	随伴ガス利用・アッカスガス田等開発
石油精製	58万b/d	145万b/d	ガソリン不足対策(2004年12万b/d輸入)

■ 課題

- ・インフラ整備(パイプライン・石油輸出ターミナル等)
- ・新石油法等の制定(クルド人勢力との合意、国民的コンセンサスの形成)
- ・OPEC生産枠問題(シャハリストーニ石油相6/7談:400万b/d到達後に協議開始)

(参考)イラク石油生産量の推移

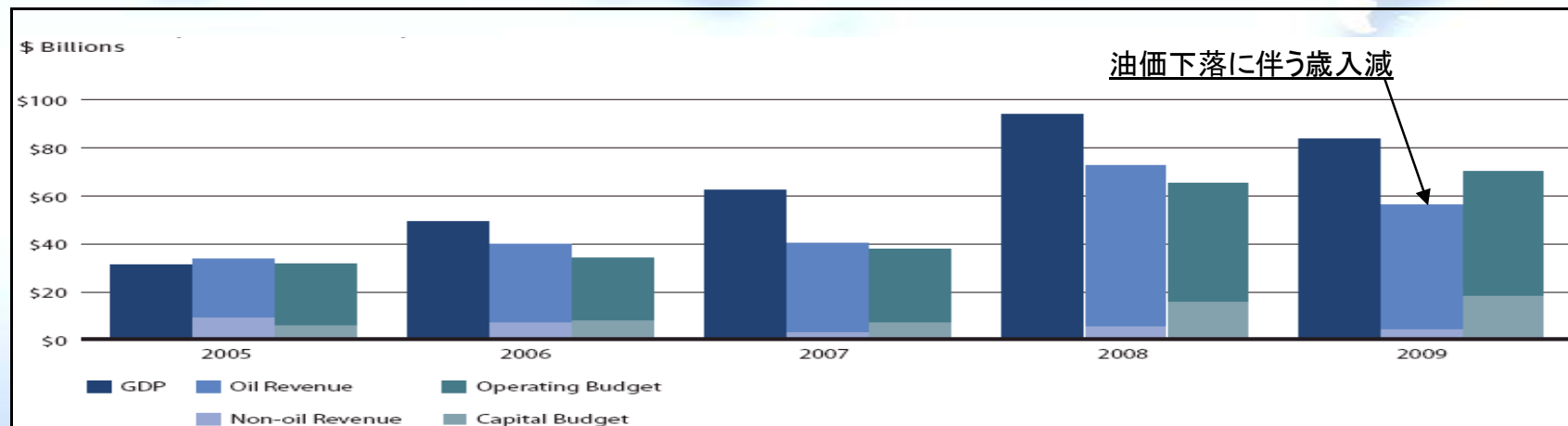


4. 経済

(1) 2010年度国家財政における石油収入の重要性(IMF報告2010. 2)

■歳入総額	605億ドル	(含む海外援助15億ドル)
・石油財源	540億ドル	: 歳入総額(605億ドル)の89%、GDP(803億ドル)の67%
石油輸出収入	480億ドル	: 210万B/D、62.5ドル/バーレル
国営石油会社収入	60億ドル	
■財政支出	758億ドル	(歳入不足▲153億ドル)
・経常支出	538億ドル	
給料・年金	243億ドル	: 内務省・国防省67億ドル(兵員約66万人)
移転支出	102億ドル	: 食料配給制度等37億ドル、国営企業補助26億ドル
戦時賠償金	24億ドル	: 残高240億ドル(他に対外債務数百億ドル)
・投資支出	220億ドル	: 石油部門投資34億ドル

(参考)イラクのGDP・財政動向



(出所) SIGIR "Quarterly Report to Congress" 2009.7.30

4・経済

(2) 当面の経済動向

■ GDP： 実質7%台の経済成長見通し／但し、石油価格の下落リスク

■ 消費者物価： 5～6%程度で安定的に推移

■ 財政収支： 2009年大幅財政赤字から回復／2012年には黒字化の見通し

項目	単位	2008 (推定)	2009 (推定)	2010 (見通し)	2011 (見通し)	2012 (見通し)
実質GDP成長率	%	9.5	4.2	7.3	7.9	7.6
GDP	億ドル	865	658	803	928	1062
一人当たりGDP	ドル/人	2845	2108	2505	2826	3156
石油生産量	万b/d	230	240	260	290	310
石油輸出量	万b/d	180	190	210	230	250
石油価格	ドル/バレル	91.5	56.5	62.5	67.5	70.0
消費者物価指数(年末比)	%	6.8	-4.4	6.0	5.0	5.0
財政バランス(対GDP)	%	1.7	-22.6	-19.1	-5.7	2.2

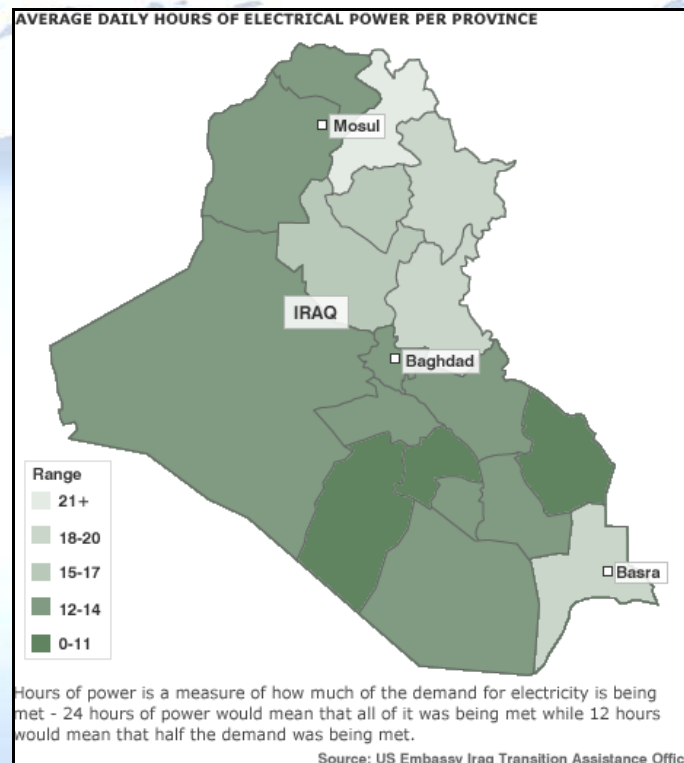
(出所)IMF報告2010.2.16

4. 経済

(3) 生活インフラの復旧状況

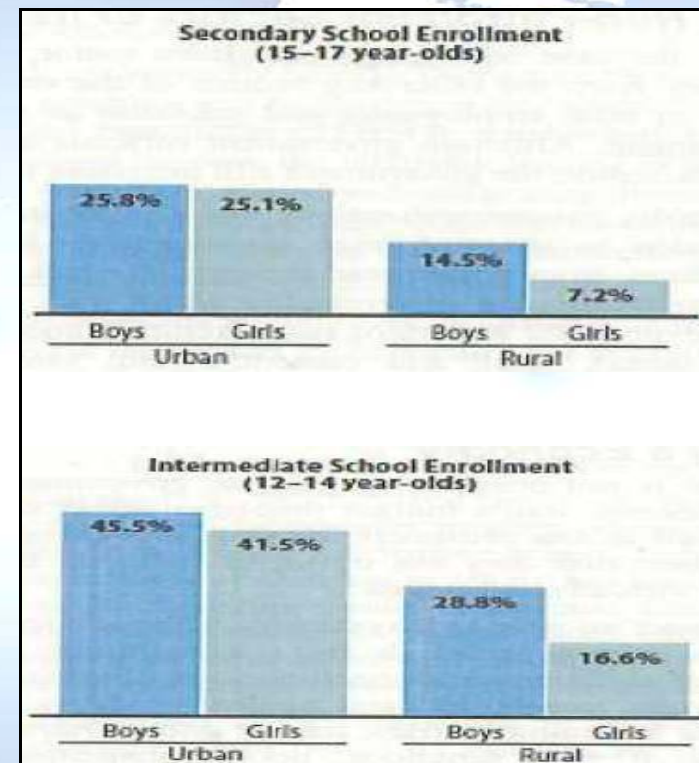
- 電力供給: ピーク需要の半分(発電用ガス・資機材の不足/低料金による需要増)
- 保健・衛生: 医師の国外流出<イラク戦争前3.4万人→半減>等、乳幼児死亡率の上昇
- 教育体制: 低い中・高等教育進学率、海外留学者の未帰国

(参考) 県別通電時間(2009年第4四半期)



(出所) BBC Iraq: Key facts and figures 2010.5

(参考) 中・高等教育進学者の割合



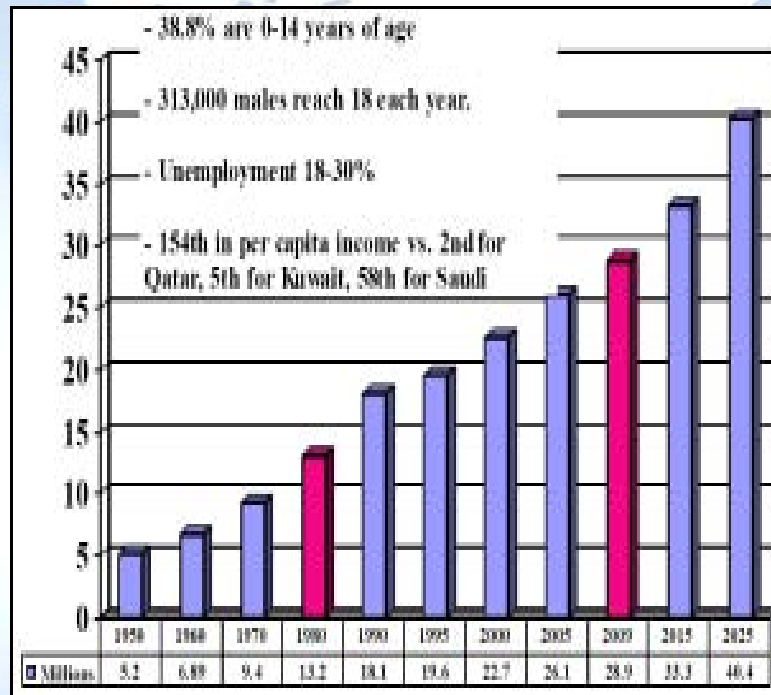
(出所) SIGIR 議会報告 2009.10.30

4. 経済

(4) 産業振興の必要性

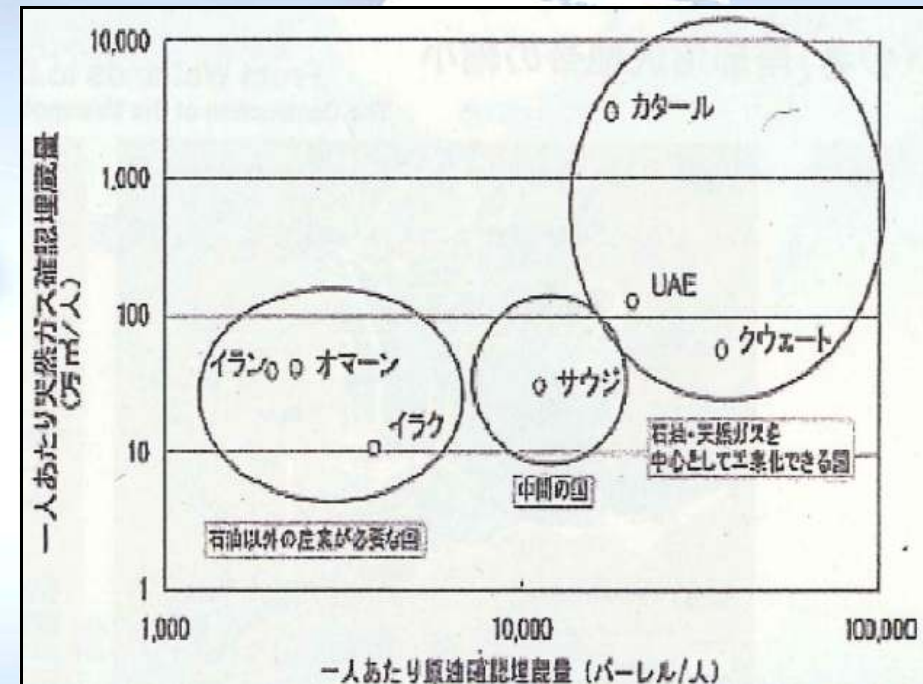
- 雇用機会の創出： 失業率の引下げ(若年層対策は治安面からも急務)
労働者の半分以上は政府部門の雇用
- 石油・ガス資源量： GCC諸国との比較では相対的に希少

(参考)急増中のイラク人口



(出所)A. H. Cordesman 資料2009.7

(参考)一人当たりの石油・ガス資源



(出所)JCCP 資料2008.3

4. 経済

(5) イラク農業の現状 < GDPの5% / 総雇用者の17% (CIA推定) >

■ 2008/2009年早魃: 小麦113万トン / 本年回復: 小麦200万トン < 需要量450万トン >

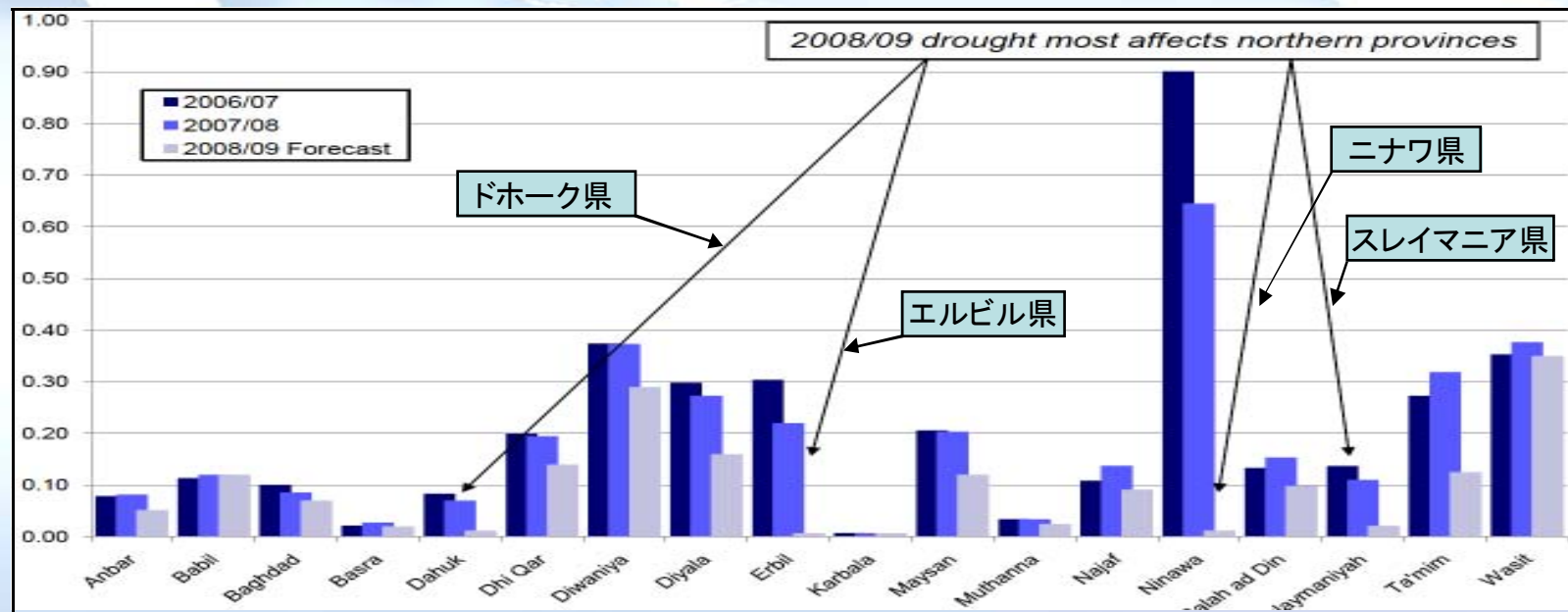
- ・イラク北部: 天水農業の不安定性
- ・イラク南部: 水不足に悩む灌漑農業 (上流国の利用増加 / 排水管理・塩害対策の不備)

■ 農業衰退の歴史的経緯

- ・1958年共和革命以降の農地解放・農産物低価格政策の失敗
- ・国連石油食料交換計画による安価な輸入食料品の流入

(参考) 小麦・大麦の生産量

(単位: 百万トン)



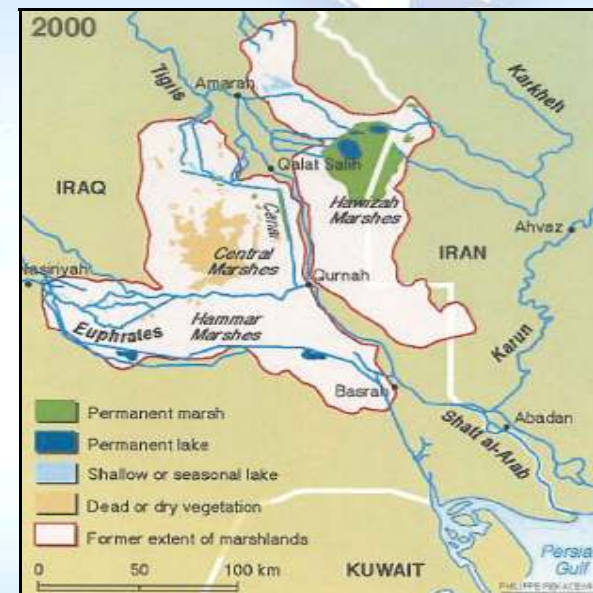
(出所) A. H. Cordesman "Iraq's Fracture Lines" 2009.7

4. 経済

(6) 自然環境の荒廃

- 水資源の劣化： 南部沼沢地帯の干拓事業<治安対策>
上流国での大型ダム建設・農業用水等の利用増加
- 戦乱の後遺症： 残留地雷(国境地帯等に約2000万発敷設)の脅威
劣化ウラン弾の使用による環境汚染
軍用車両走行による表土破壊

(参考)南部沼沢地帯の縮小



(出所)UNEP“Vital Water Graphics: Problems related to freshwater resources”

4. 経済

(7) 製造業の現状

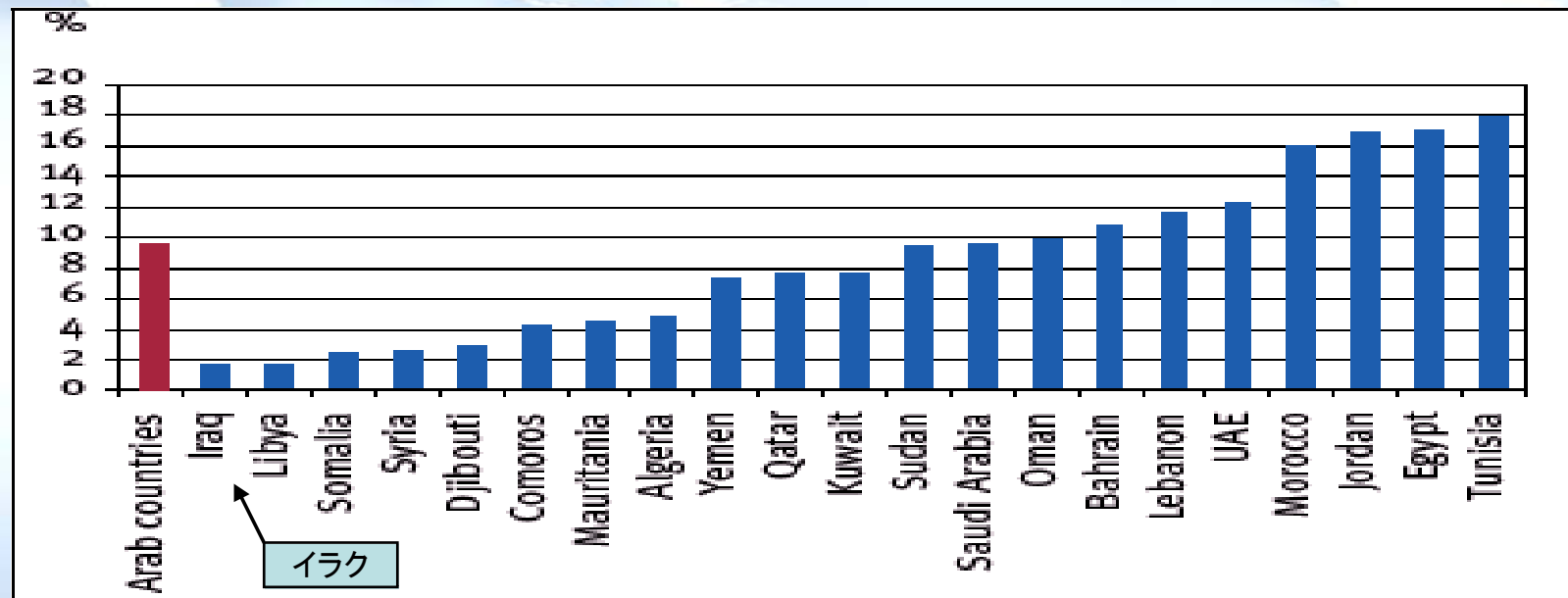
■フセイン政権下の製造業の衰退:

- ・イラン・イラク戦争による財政破綻、国連経済制裁による資機材不足
- ・非効率な国営企業群(約200社・80万人): 「石油の富」を体制維持に流用

■製造業育成の取組み課題

- ・産業インフラ整備: 電力、通信、交通・運輸、金融・保険
- ・統制経済からの脱皮／自由市場経済改革の推進

(参考) GDPに占める製造業の割合(2007年現在)



(出所) UNDP “Arab Development Program”

4. 経済

(8) 航空・通信部門の復興状況

■通信部門 固定電話の整備: 130万件(2010.1)

インターネットの普及: 160万件(同)

携帯電話の普及: 3社 1950万件(同) <第4社の入札方針決定>

■航空部門 外国航空会社の乗入れ: ルフトハンザ(エルビル便運行中、バグダード便9月末予定)

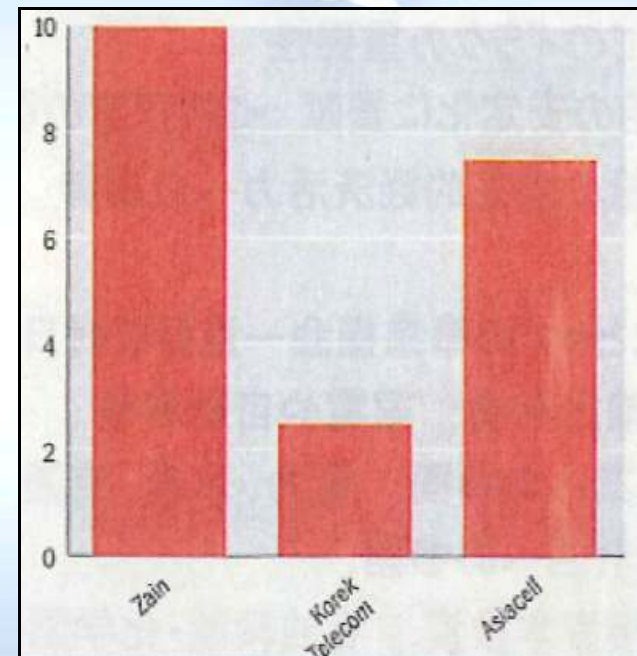
イラク航空の再建: 15機保有・数十機発注、ロンドン便再開<2010.4→運休>

(参考) 国際空港の整備状況

空港名	滑走路	備考
バグダード	4000m 3300m	イラク航空のハブ空港 ヨルダン・トルコ航空等の乗入れ ターミナル拡張等を計画中
バスラ	4000m	1960年代VIP専用空港として建設 2005.6 再開
ナジャフ	3000m	2008.7 開港(元空軍基地) シーア派巡礼者の受入
モスル	2650m	1920年代に英空軍基地として建設 2007.12 再開
エルビル	4800m 2800m 1250m	クルド地域最大の空港 1970年代空軍基地として建設 ルフトハンザ等の乗入れ
スレイマニア	3500m	クルド地域第2の空港 2005.7 開港

(参考) 携帯電話3社の契約件数

(単位: 百万件)



(出所) MEED2010.4.16-22

4. 経済

(9) 外国企業の進出状況(非石油分野)

■イラク全体

各国首脳・使節団等のイラク訪問： サルコジ仏大統領(2009.2)、UAE経済使節団(2010.5)

見本市・フォーラム開催： トルコ企業によるバスラ国際空港内見本市(2010.5)

進出事例： STX重工業(韓国) ガス火力(50万kW)・製鋼工場(バスラ)

上海電気(中国) 火力発電所(132万kW)(イラク南部クト近郊)

ラファージュ(仏) セメント工場改修事業(イラク中部カルバラ近郊)

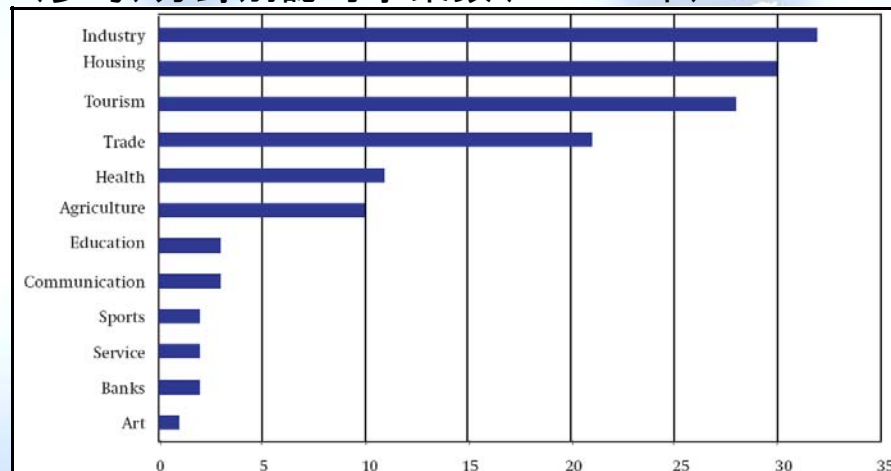
■先行するクルド地域

ペシュメルガによる良好な治安維持

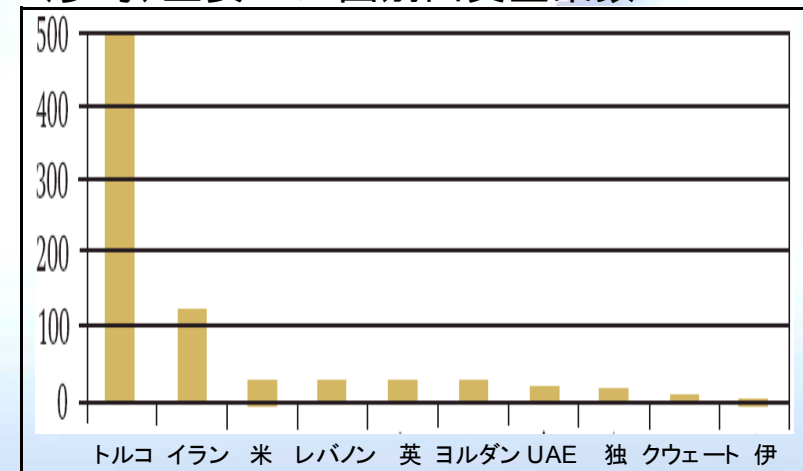
独自の投資環境整備： 2大国際空港整備

独自の投資法<認可事業145件/総額160億ドル:2009.1現在>

(参考) 分野別認可事業数(2009.2末)



(参考) 主要10か国別出資企業数



まとめ

■イラクの重要性

- ・重要な石油供給国
- ・中東最大級の経済的可能性 <石油、水、人口>
 "the only Arab country with plenty of oil and water and a large enough population to exploit both."
 (出所) The Independent 2009.6
- ・中東・湾岸地域安定化の担い手 <「不安定の弧」→「繁栄の弧」>

■日本企業にとっての事業機会ー良好な対日感情／厳しい国際競争ー

- ・インフラ再建事業：電力、水道、交通、通信等
- ・石油・天然ガス資源開発
- ・民生用商品輸出：家電・自動車等
- ・産業部門投資：基礎資材(セメント・鉄鋼等)、石油精製・石油化学、農産物加工、観光

■イラク・ビジネスにおけるリスク視点

- ・治安リスク：政治的テロの巻添え、犯罪(誘拐・強盗等)
- ・政治リスク：政権交代等に伴う政策変更、脆弱な行政機構
- ・商業リスク：乏しい国際ビジネス経験、商法制・金融制度等の未整備